

Hoppo Journal

時代を撃つ北の報道・評論誌

12 DEC. 2015 北方ジャーナル

NEWS LINER

NEWS LINER

出所者支援・札幌の建設会社に 道更生保護委が委員長感謝状

■元受刑者積極雇用の北洋建設、車椅子の社長に栄誉

札幌市内で10月23日、北海道地方更生保護委員会の道央ブロック更生保護研究大会が開かれ、保護司などの活動で更生保護に尽力した人たちに感謝状や表彰状が贈られた。刑務所を出所した人たちが積極的に従業員として受け入れる札幌の建設会社・北洋建設には委員長感謝状が授与され、難病を抱える小澤輝真社長

(41)が車椅子で大会に参加、感謝状を受け取った。

更生保護研究大会は毎年1回の開催。犯罪や非行のない「明るい地域社会」づくりに貢献した人たちを讃え、活動の趣旨を確認し合うことを目的に、各地の保護司や更生保護女性会メンバーらが数多く参加する。本年の道央ブロック大会では約560の個人・団体が表彰の対象となり、

更生保護研究大会は毎年1回の開催。犯罪や非行のない「明るい地域社会」づくりに貢献した人たちを讃え、活動の趣旨を確認し合うことを目的に、各地の保護司や更生保護女性会メンバーらが数多く参加する。本年の道央ブロック大会では約560の個人・団体が表彰の対象となり、



更生保護委員会委員長感謝状を受け取る北洋建設の小澤輝真社長。口癖は「ガンガン行きますよ！」(10月23日午後、札幌市中央区の札幌市教育文化会館)



平成27年度 北海道・道央ブロック更生保護研究大会

更生保護や再犯防止は、ボランティアの地道な活動に支えられる。札幌地裁の阿部潤所長や札幌地検の高崎秀雄検事正などが感謝の辞を述べた

日頃の功労をねぎらい合った。裁判所や検察庁、矯正管区など、再犯防止に取り組み関係官庁からも各庁の長が足を運び、取り組みへの感謝を述べている。

本誌などのメディアでたびたび活動を紹介される北洋建設は、30余年前の創業時から積極的に刑務所や少年院の出所・出院者を受け入れ続けたことが評価され、「協力雇用主」として感謝状を受けた。難病・脊髄小脳変性症を抱えながらも精神的に出所者支援を続ける小澤社長は、近年とくに出所前の受刑者や出院前の少年との面接に力を入れており、今月も道外の少年院から1人雇用することが決まっているという。感謝状を受けた小澤社長は、「私たちにとってはごく当たり前の取り組みですが、躊躇する会社もあるそうです。この機会に、ぜひ協力雇用主になって欲しいと呼びかけたい」と、支援の輪の拡がりに期待している。

同社によれば、来年1月には社長の実母で前社長の小澤静江さん(67)が、非行少年の生活全般を世話する「補導委託」の活動などにより札幌高等裁判所長官賞を受けることが決まっているという。